

途上国の持続的な発展に貢献したい

私は学部時代に農業経済を学んでいたのですが、その時に「開発」という分野に触れ、将来は途上国開発の仕事に携わりたいと考えるようになりました。同時に理系の専門分野で得られる代替の利かない知識を身に付けたいと考え、大学院に進学して環境工学を専攻し、微生物学的なアプローチで上水の安全性に係るリスク管理に関する研究をしていました。

就職活動では、「途上国開発」というキーワードを軸に、商社や建設コンサルタント、JICAを中心に検討していました。近年、途上国に流入する資金の多くは民間のものであり、ビジネスによって利益を生み出す方が途上国にとって持続性の高い発展が見込めるという見方があります。しかし一方で、世界にはまだまだビジネスとして進出するにはリスクが高い国や地域が多いという現実もあります。そのような国や地域にもアプローチでき、ゼロからプロジェクトを生み出せる組織で働きたいと考え、JICAを選びました。

国の財務状況や開発効果、環境への影響など、膨大な情報が必要な審査を担当

JICA入構後は南アジア部に所属し、スリランカのアヌラダプラ県北部上水道整備事業プロジェクトにおいてJICAが円借款を供与するための調査、審査、借入契約に関する業務を担当しました。

同国の中心都市であるコロンボなどに比べてアヌラダプラ県では上水道の整備が遅れており、多くの人が井戸水を利用しています。しかし、地下水の水質が悪く、フッ素を多く含んでいるため高濃度フッ素を

世界のあらゆる場所で求められている

“理系”の力

言語や文化に依存しない理系の専門知識や論理的思考力を持った理系出身者が活躍できるフィールドは、国境を越えて確実に広がり続けている。世界最大級のODA実施機関である国際協力機構（以下JICA）でも多くの理系出身者が在籍し、世界各地で活躍しているという。そのJICAでスリランカの国家的プロジェクトに参画した浅見達也氏から、世界を舞台に働く醍醐味、仕事で活かしている理系の素養などについて話を聞いた。



1 アヌラダプラ県北部上水道整備事業(フェーズ2)で建設予定の浄水場では、灌漑用貯水池を水源とする予定。
2 アヌラダプラ県北部上水道整備事業(フェーズ2)の事業対象地の様子。現状、住民は、炊事用水や飲用水として、安全でない井戸水の利用を避け、水道会社が給水車で配る水を待っている。



原因とする歯牙フッ素症が蔓延しており、スリランカ政府も重要な問題であると認識していました。そこでJICAが検討・調査を行い、円借款案件（有償資金協力）としてプロジェクトがスタートしたのです。

円借款案件において私たちJICAが行う審査ですが、民間の銀行と同じように相手国の財政状況など信用・リスクを確認するほか、開発効果に関する様々な項目も対象となります。今回のプロジェクトでは、開



3～5 世界銀行・アジア開発銀行と合同で住民にヒアリングを行い、過去の案件を評価することにより、スリランカの水分野が抱える課題を抽出した。

発によって水道水を使えるようになる住民数や地域の把握、水道料金に関するスリランカ政府の政策・方針事業の実施機関である水道公社の技術水準、被益住民の中で不平等が生まれる可能性、上水道施設建設により自然環境に与えるダメージなどに関しても情報を集め、確認を行いました。

このような調査と審査内容をもとに、スリランカ政府当局との協議を重ね、先方政府との最終的な合意を得た後に、借款契約調印を経て、2016年11月よりプロジェクトは無事に実施フェーズへと入りました。プロジェクトの完成予定は2021年。JICAは監理者としてプロジェクトの進行をチェックしています。

プロジェクトの審査の段階においては、私自身がスリランカ政府当局と協議を重ねましたが、簡単に合意が得られることはまずありませんでした。どれだけ準備を重ねても互いの主張が噛み合わないこともありましたが、最終的に合意文書にサインをいただいた時は「これで多くの人たちに安全な水を届けられる」という大きな達成感がありましたね。

ロジックを組み立て言語化する 理系として培った能力を存分に発揮

グローバルに活躍したいと考えている方に向けてアドバイスをすると、日本の経済や社会について意識的に知識を得ておくことをおすすめします。実際に、海外で働いていると「日本の場合はどうなのか」と聞かれることが非常に多く、日本について自分の言葉で語れることはグローバルなフィールドで働く上で、非常に重要なことだと感じました。

私の場合、大学院での研究内容とプロジェクトの親

和性が高かったこともあり、学んだ専門知識を直接仕事に活かすことができませんでした。また、プロジェクトの審査段階では、かなりの数の協議用文書を作成しましたが、そのために様々な資料を読み、数字を用いて説得力の高い文書を作ることが求められます。このような場面では、数字をベースに議論をして、ロジックを組み立て、言語化するという理系で鍛えられてきた能力を存分に活かせたと感じています。

その他にも、JICAでは農業、土木、都市計画、防災、環境などを学んできた方を中心に、多くの理系出身者が活躍していますし、事業の幅広さを考えるとあらゆる専門性を持った方に活躍の場があります。理系として培った能力を活かし、世界が直面している課題を解決したいと考えている方にとって、格好のフィールドがあると感じています。

浅見達也 (あさみ・たつや)

国際協力機構 (JICA)
企画部 総合企画課

工学系研究科 都市工学専攻 修士
大学院では水環境の研究室に所属。
2015年JICA入構後、南アジア部にて円借款案件であるスリランカの上水道整備事業プロジェクトに参画し、案件審査および審査のための調査業務全般、借款契約を担当。2017年5月より企画部に在籍。



WEBサイト「理系ナビ2019」で
今回ご紹介した上水道整備事業
プロジェクトの詳細を解説した
記事を公開しています。
右記QRコードよりご覧ください!

